

日本社会学会・韓国社会学会  
未来の友好協力のための社会学からの提言

ともに向き合い対話を続けよう！

日本と韓国両政府間の葛藤があらわになった今年7月から二ヶ月が過ぎようとしています。

経済分野に広がった摩擦は、文化や社会にまで影響を及ぼしており、あたかも両国の全面対決であるかのような様相を呈し始めています。政治的話し合いによる妥協が現時点における唯一の解決策でしょうが、両国政府の態度と立場をみますと期待が困難な状況にあります。

東北アジア諸国はそれぞれに過去の辛い歴史を克服し、相互信頼という土台の上に発展を成し遂げてきました。とくに日本と韓国の相互補完的協力関係は東北アジア繁栄の核心的基盤でした。それゆえ、両国間の葛藤が継続すれば、両国家のみならず東北アジア地域全体における平和構築に支障をきたす可能性が高くなります。

日本と韓国の社会学者はともに現在の状況に対して深い憂慮を表し、今日まで築いてきた協力体制を強化していくことをここに言明します。一粒の麦でも実を結ぶのだという希望をもち、両国の信頼回復と協力のために、両学会がこれまで長い時間をかけて共存と連帯の価値を共有し築いてきた交流の内実をより深めるよう努力をいたします。現在生じている葛藤の根本的原因となる歴史の解釈とそれへの対応について学会としても引き続き関心を持っていきます。

政治的葛藤を克服しようとする交流は学会レベルを越えてさらに広げていく必要があります。政治を理由に、経済、学術、文化、芸術、スポーツなど民間レベルの交流が萎縮することがないようにしなければなりません。両国の市民社会が活発に交流し、日本と韓国の健全な関係とはいかなるものであるのかをともに悩みながら、葛藤を解消する実質的基盤を絶えず作っていかねばなりません。

日本と韓国の若者が交流できる空間が必要です。歴史にたいする理解の共有と相手への共感なくしては、これからもこの葛藤は繰り返されていくことでしょう。両国の若者たちが活発に交流し、違いを認め互いを尊重し寛容になったとき、新たな未来が開かれます。

社会を学ぶ者として、私たちは社会の力を信じています。

ともに向き合い対話を続けよう！